

## 第1回太宰府市観光推進基本計画策定協議会 会議録

とき：平成30年10月12日（金）10時～12時10分

ところ：太宰府市役所3階庁議室

出席者：太宰府市観光推進基本計画策定協議会委員（大江会長、竹川副会長、有吉委員、加納委員、高山委員、田中委員、井上委員、堀委員、草場委員、一瀬委員、中村委員、相良委員、添田委員、神代委員、大末委員、松永委員、岡崎委員）

関係者（山田氏、桑原氏、山崎氏）

太宰府市（楠田市長、藤田観光経済部長、木村観光推進課長、山崎観光推進係長、竹原主任主査、児嶋主任主事）

傍聴者：なし

### 1. 委嘱状交付

（市長から各委員に委嘱状を交付）

### 2. 市長あいさつ

市長 委員が大人数になり、日程調整などご無理をお願いした。ご出席ありがとうございます。

太宰府天満宮をはじめとして、太宰府は日本有数の観光資源を有している。平成29年には観光客が1000万人に達した。急激なグローバル化もしている。

観光と市民生活が共存し、向上していくために、観光施策の実施が求められている。そのため、観光推進基本計画を策定することとした。幅広く意見を頂戴して策定していきたい。

太宰府は全国にとどろく名前。大きな強みをもっているが、滞在時間が短いなど、市民として観光客の効果を感じていない人もいる。

今までこのような計画を策定していなかったが、来ていただく方、住んでいる方に喜んでいただけるよう、意見を伺いながらまちづくりをしたい。そしてそれが国、地域の発展につながるようにしたい。

### 3. 会長、副会長の選出

事務局 会長、副会長の選出の前に、第1回目開催となることから自己紹介をお願いしたい。なお、本日委員が欠席されている場合については、お手元の資料2の計画策定協議会規則第6条第4項に、「必要な者に協議会に出席を求め、説明又は意見を聞くことができる」とあるように、欠席されている所属団体から、他の方に出席いただいていることを紹介する。

各出席者 （自己紹介…省略）

事務局 会長、副会長については、委員の互選により定めることとなっているが、自薦、他薦される方はいるだろうか。いないようであれば、会長に大江氏、副会長に竹川氏を事務局から提案するがいかがだろうか。

全員 （拍手）

事務局 では、大江会長、竹川副会長は席を移動いただき、一言ずつご挨拶をお願いしたい。

会 長 太宰府は九州の観光の重要な拠点。九州は地域が連携した観光になっている。熊本県で災害があると長崎にも影響する。  
今後、福岡がアジアの重要な拠点になっていると、太宰府も更に重要になっていく。

副会長 地域貢献という言葉が出てきた。近年、地域貢献に観光の要素が入ってきている。大学では外国人留学生と地域活動をしており、日本人にはない視点が出てくる。経済の視点も含めて還元していきたい。

#### 4. 太宰府市観光推進基本計画素案について

会 長 では、事務局からこれまでの経緯と今後の策定スケジュールについて説明をお願いしたい。

事務局 (スケジュールについて資料3を用いて説明)

会 長 皆さんからご質問等はないか

一 同 (特に質問等はなし)

会 長 では、続きましてお手元に配布されております計画素案の概要について事務局から説明をお願いしようと思うが、本日は事務局から説明を受けて、計画素案をお持ち帰って一度熟読いただきたいと思う。そして、次回の会議からこの計画素案の中身についてご議論いただきたいと思う。  
そして、本日は、この計画の中身はひとまず置いておいて、今日初めてお会いする方も多いかと思うので、各委員の太宰府観光に対する思い、あるいは太宰府観光への期待や課題といった事をそれぞれ自由な意見をお聞かせいただきたいと思っているが、そうした進め方でよろしいだろうか。

一 同 (特に意見等はなし)

会 長 では、事務局から計画素案について説明をお願いしたい。

事務局 (計画素案について説明)

会 長 本日は説明を聞くまでにしようと思っているが、今日の段階で計画素案について何かご質問等はないだろうか？

一 同 (特に意見等はなし)

会 長 では、各委員から太宰府観光に対してのご意見を頂戴したいと思う。お一人3分程度にまとめていただきたい。

副会長 太宰府のネットワークがよい。鹿児島県の阿久根市に万葉の歌碑があり、鹿児島とも文化のつながりがあり、そういうストーリーがある。太宰府のネットワーク、九州

全体のつながりを活かしたい。九州の観光を歴史・文化でみると、太宰府が中心になる。太宰府が発着点になり、最終的に宿泊できるようなことができればいい。太宰府による商品開発が必要。外国人観光客は、何もしたくない、ゆったりしたい、というニーズもある。グリーンツーリズムという言葉もある。キーワードはお茶。お茶の文化を歴史のストーリーと結び付けていく。そこに農業などを結び付けていく。太宰府の緑の環境をいかしていくのがヒントになるのではないかな。

- 会 長 九州観光推進機構では県境をまたぐルートを作成した。
- A委員 西日本新聞は県境をまたいで発行している新聞である。私がお客様を案内する際は昼は太宰府、夜は中州というルートで案内していた。福岡にとって太宰府はキラーコンテンツ。だからこそ新しい魅力を作っていくのは難しい可能性もある。資源はあるので、一致団結してキャンペーンをするなどしていくのがよい。九州のゴールデンルートは福岡→日田、阿蘇→福岡のようであるが、その場合、宿泊は熊本。それを太宰府に宿泊していただくことが重要。県境を越えて、阿蘇であるとか、九州全体の連携を考える必要がある。
- B委員 太宰府に来る前の印象は、天満宮、九博、太宰府インター。太宰府を知らない人はほとんどいない。しかしそれ以外の観光資源は知られていないことが多い。そこを発信していく、周遊ルートをつくっていく、それで滞在時間を長くしていくことが必要ではないか。宿泊の課題、渋滞の課題もある。空き家対策と宿泊場所確保を結び付けていく。
- C委員 太宰府は人が良い、と言われた。行橋でも今回のような形で委員として参加。そこでは、まずどうやって人を集めるかが課題だった。太宰府はそうではない。歴史が好きの方はひきつけられる。歴史に興味がない方や若い方がどこに行くか。糸島や福岡のように若い方が来たくくなるようなスペースがあれば、もっと発展するのではないかな。
- D委員 歴史的資源をいかしていくのが重要。外国人観光客が多いイメージだったが、まだ国内旅行者が多いという事が分かった。コト消費、体験型、食事などに変わってきている。いまは滞在時間が短い。消費額も小さい。観光客のマナーが悪い、という意見もある。そのあたりの対応もできるとよいのではないかな。
- E氏 欧米のインバウンドにとって、日本の古い町並みは関心が高い。住民からすると観光スポットとしての価値を認識しづらい。長期滞在を考えると、町並み観光であるとか、こんもりした日本的な山も観光スポットになる。
- F委員 インバウンドの数は福岡のインバウンドとほぼ同数。ということは福岡を訪れる外国人は必ず太宰府を訪れていると思われる。太宰府はコンパクト、山とも近い、自然があり、歴史もある。天満宮から他のところでどう動いていただくのか。県のインバウンドは東アジアに偏っているのが現状。欧米の方にどう魅力を感じていただくのが課題。
- G氏 2019年にラグビーワールドカップ、2020年はオリンピック、2021年は世界水泳。受け入れ環境の整備が重要。例えばキャッシュレスへの対応。福岡市では太宰府市と共同でアリペイの実証事業をしたことがある。ウォレットレス（指紋

認証による支払い) という仕組みもある。

- H委員 駐車場のそばに住んでいる。観光客の滞在時間は短いと感じる。自治会長の間では、外国人観光客のマナー問題の話をするところがある。大型バスの通行ルートが通学路、生活ルートと重なっていたところを今年、御笠川沿いに歩道整備を実施し通学路の変更を実施していただいたが、市民としてはまだまだ車を運転していて怖いのが実態。市民の生活の中に観光があるということを考えてほしい。また史跡の維持がいきとどいていないことを感じている。観世音寺の東側、南側、都府楼に至るまでに史跡地の遊休地などがある。ここに市として、観光地として手を加えることができるのか聞きたい。
- I委員 若い方はオシャレなものにひきつけられる。スタバは滞在時間が長い。オートキャンプ、登山の人がいる。筑紫地区5市の歴史観光の連携。観光に力を入れすぎて、昔のほうがよかったねとなるのは寂しいので、そうならないように。滞在時間をのばすには、体験プログラムの開発が必要。市民がPRに関わるとよい。
- J委員 宝満山の登山客が増えているが、山を登った後、休憩する場所がない。高橋紹運のように人気がある武将もいるが、岩屋城跡などにはただ案内があるだけで、歴史好きの方が行くときのコンテンツが弱い。小6の娘が、太宰府検定を取ることが宿題になっていた。小中学生が太宰府のことを知って、郷土愛をはぐくんでもらえるといい。そういう活動が普及するとよい。
- K委員 やはり特筆すべきは歴史文化。課題は観光インフラの未整備。生活とぶつかると成長戦略に位置付けることさえ難しくなる。経済波及効果が弱い。市内に循環しない。それだけ業者が育っていないということ。地産地消の取り組みが必要である。いままでは、なんとなく観光地だった。官民でコンセンサスをとって戦略的に実行していくことが重要。
- L委員 交通インフラの整備をしないと滞在時間は増えない。渋滞解消が必須。夜の飲食、宿泊開発と考えると、どれくらい時間がかかるのか。国によって文化が違うことを痛感している。ある程度慣れるわけではないが、理解、許容するのも必要と考えている。クルーズ船客もいるが、ほとんどお金を落としていない。実態は1,000円くらいではないか。個人客をもっと増やす必要がある。
- M委員 インフラ整備は必要と思う。この6年間の変化はインバウンドの激増。キャパオーバーの状況。静かにお参りしたい方にとってはショックを受ける状況。国別でひとくくりにはできないが、マナーが悪い方もいる。適正な数というものがある。街全体の回遊性が必要。海外は現地で調達できるツアーが充実している。太宰府でもそういった取り組みが必要。
- 会 長 ルールを伝えていかなければいけない。
- N委員 九博では夜間開館を始めたが、地域には多くの隠れた魅力がある。これらを掘り起こし、一体的に発信することが重要と考え、関係者の皆様のご協力を頂き、スポット番組の放映を開始した。今後も、点から面への展開、周遊性の向上を図る必要があると考えている。

○委員 2点ほど。1.「古都の光」では福岡市など近郊からの来場者が多く、展示館で解説を聞いて「これまで大宰府の歴史を知らなかった」と喜んで頂いた一方、PR不足も指摘された。太宰府は古代から現代まで街中に物語の舞台が広がる希有な場所。特に史跡地周辺は今後の回遊性アップにポテンシャルが高い地域で、交通アクセスを含め環境整備が望まれる。2.市の複数の会議に出席する機会があるが、他課が進める諸計画との連携はどうか。特急停車駅である西鉄二日市駅が、客館跡の整備と合わせて回遊のハブ的な要素を持つ可能性も聞いている。この基本計画にも反映されるのか関心を持っている。

P委員 訪れてよし、歩いてよし、住んでよし、となるとよい。住んでよし、は大事なポイント。長崎、鹿児島からの集客が少ないのが意外。ニーズはあると思う。広域でストーリー性を持ったアピールが必要。今後、国内旅行者は50代、60代が中心になってくる。古民家などは充分訴求できる内容なのでよいと思う。

Q委員 計画案を見せて頂いたが、渋滞が課題としてあがっており、その解消にも触れたほうが良いのではないかと。また、太宰府全体のエリアとして、更に個別エリア毎にどのようなまちを目指すのか、考えたほうが良い。内容が最初から個別の戦略に寄っている印象。まちの将来像といった一つ上の視点が必要では。そして、どのような取り組みをするにも推進体制が大事。一緒に考えていきたい。

R氏 キーワードは、バランス、スタイル、フック。まず住民とのバランス。アンケートなどを取りながら、取り組みを進めていくべき。また外の事業者の誘致は斬新なアイデアは出るかもしれないが長期的にはコントロールしづらい部分もある。次に太宰府のスタイルをどう考えるか。お賽銭は100円以上とか、参道は「笑顔で」とか。町並みの木造化とか。

市長 筑紫地区との連携はずっと言われている。太宰府が核になって周辺に広がることができる。太宰府が核になって、周辺、九州全体、国に広がるとよい。総合計画は33年から策定するため、本計画が先だって進めている。その点で、上位計画、方針より先に検討していくこととなっている。この内容を、総合計画に反映したい。引き続き率直にご意見いただきたい。

会長 ありがとうございます。それでは全体を通して、ご意見、ご質問等はないか。

一同 (特に意見等はなし)

## 5. その他

会長 ないようなら、5のその他に入る。事務局からは何かあるか。

事務局 次回の開催について、事前に日程調整をさせていただいた。まだご予約が分からない委員もいるので、後日ご連絡させていただきたい。現在のところ有力な日程は、11月5日(月)の午後か、11月12日(月)の午後出席可能な方が多い状況。なかなか20名の委員全員のスケジュールが合うことが難しく、都合の悪い日の開催になる場合もあるかもしれないが、ご理解をお願いしたい。なお、欠席の場合は、今回と同じように各所属団体からどなたかご出席いただきますようお願いしたい。

会 長           では、次回の日程は、事務局から連絡してもらおうという事でよろしく願います。  
他には事務局からないか。委員の皆さんからも何かないか。

一 同           （特に意見等はなし）

会 長           無いようでしたら、本日の協議会を終了する。